

東東京声優塾 夏季特別講座 2022

～四季神チルドレン 制作実習 オーディション用資料～

○夏季特別講座 2022 とは？

東東京声優塾が7月に行う、外部からの講師（岡田貴之/ケンユウオフィス所属）による全3回の特別講座です。

岡田貴之氏がかつてプロデュース公演で発表したファンタジー巨編「四季神チルドレン」をオーディオドラマとして制作、受講者はそのキャストとしてレッスンに参加しつつ、最終的に同作品を完成させます。

○『四季神チルドレン』について

岡田貴之（ケンユウオフィス）が原作、企画立案したプロデュース公演用の題材。

舞台公演用に書き下ろされましたが、今で言う2.5次元系朗読劇の様に、スクリーンにイラスト映像を流し、演者（声優）が生アフレコを行うという当時では珍しい発表形態の舞台でした。今回、その作品を完全リニューアル。

東東京声優塾の特別レッスンとして、複数回練習後、同作品を収録し後日YouTube上で発表します。

発表時には、イラスト・音楽を現在活躍中のプロクリエイターの手で刷新。

ご参加の皆さんが、営業用のツールとして使えるようなオーディオドラマを完成させる予定です。

○作品内容

『四季神チルドレン』は、現代を舞台としたファンタジー巨編です。

古の時代から繰り返される陰陽師や聖霊と「邪なる者」との長きにわたる戦いの物語。

人より「ほんの少し違う力」を持った少女達が、その「ほんの少し違う力」故に普通の人では相対することができない「邪なる者」を感じ取ってしまいます。

最初は、地縛霊、浮遊霊のような成仏できない一般霊を祓う程度の事で済んでいたものの、その行動が切っ掛けで、彼女たちのその一族と長きにわたり争い続けてきた「邪なる者」を呼び起こしてしまいます。

彼女たちは、自分たちを守るため、大切な人達、世界を守るため、戦いの運命に飲み込まれていきます。

今回はその序章というべき部分を参加者の皆様に演じていただきます。

○キャラ設定

◆春木桜（はるきさくら） 高校2年生

本編のメインヒロイン。四季の春。

東位の守護 青龍をパートナーとし、四季神メンバー最強の能力者だが、力は安定しない。

能力を桜吹雪の様に発現し、桜の大木に邪気を埋め、浄化を行う。

性格は天真爛漫で少しドジっ子。わかりやすいヒロイン像をイメージ。

彼女には大きな秘密がある……

◆夏目向日葵（なつめひまわり） 高校2年生

ヒロインの一人。四季の夏。

南位の守護 朱雀をパートナーとし、四季神メンバーで最も攻撃的な能力者。

炎の力を行使し、邪を祓う。

ボーイッシュで活発、姉御肌で頼りがいのある女の子

◆秋野楓（あきのかえで） 高校1年生

ヒロインの一人。四季の秋。

西位の守護 白虎をパートナーとし、四季神メンバーの中では武器を使った戦いをする。

使用する武器は聖霊が変化したもの。聖霊で打撃を与える事で力を行使する。

物理的な戦いにもっとも向いてなさそうな大人しい性格。

妹ポジションのキャラクター。

◆冬月柚子（ふゆつきゆず） 高校3年生

ヒロインの一人。四季の冬。

北位の守護 玄武をパートナーとし、四季神メンバーの中では封印の力に長ける。

玄武は結界により異空間を生成したり、封印を行ったりする。

頭脳明晰、冷静沈着で、良家の子女。誰にでも敬語で話す。

リーダー的ポジションで、国家と裏で通じ、四季神の戦いが表沙汰にならないように手配している。

◆青龍（せいりゅう） ※男女不問

桜の聖獣。東方の守護者。

桜の母（または父）がその命と引き換えに聖獣となった姿。優雅で優しく、慈愛に満ちた性格。常に桜を気にかけて、世界の安定をも望む大いなる存在。

その力の強大さ故、また桜の力が不安定なため、頻繁に表に出る事は無い、切り札的存在。

◆朱雀/夏目百合/夏目蓮（すぎく/なつめゆり/なつめれん） ※男女不問

向日葵の聖獣、南方の守護者。

向日葵の妹（または弟）の中に内在。本来は妹の百合が朱雀の能力者のはずだったが、死の呪縛にかかり、生きながらえるために朱雀と同化している。

姉とは正反対の性格で、年齢の割にはしっかりもの。雰囲気は柔らかいが芯は強い。

◆白虎（びゃっこ） ※男女不問

楓の聖獣、西方の守護者。

普段は人語を解する猫の姿をしているが、戦闘時は強力な聖獣の姿に戻る。その存在として長く生きてるので普段の言葉遣いが古く老けている（老人喋り？）

戦闘時、イケメン風はアリだが、某ニャンコ先生とドっかぶりなのは秘密。

見識に長け、伝承に詳しい。

◆玄武（げんぶ） ※男女不問

柚子の聖獣、北方の守護者。

普段は人間の姿をしている（女性配役の場合は少年、男性配役の場合はイケメン）。聖獣でありながら、現代のハイテクを駆使し、姿に見合わぬ知性を持つ。

基本的に周りを見下したような発言が多く、他の聖獣、守護者であっても、平気でないがしろにしてくるが、照れ隠しの様なもの。

◆天宮慶太郎（あまみやけいたろう）

現在の日本の総理大臣。

幼少時より学業では常に首位、中学、高校、大学と首席で卒業。身体的にも恵まれ、運動能力も高く文武両道の完璧主義者。

自身の能力が高過ぎて、息子はもちろん、周囲の人間が「できない」事が理解できない。

剛腕、辣腕を振るう時代の寵児。合理主義者。人をいたわる心に欠け、空気も読まない。

息子にはおそらく愛情はあるが、前述の性格の為伝わらないし不用意に傷つける方向に。

◆天宮慶介（あまみやけいすけ） 高校2年生

総理大臣の息子。

上記、父の才能に対し凡人。それでもどちらかと言えば優秀な部類の人材。

父との軋轢から邪なる者に取りつかれ、混乱を起こす。

本来は心優しき少年であるが、父に認められたいあまり、傲慢で自己顕示欲の強いタイプに見えている。

◆黄龍（おうりゅう）

ラスボス。邪なる者その人。多くの邪霊を従え、世に呪いを振りまく。
本来は四聖獣の中心、麒麟と同じ立場になる可能性をもった存在だが、後述の麒麟が現れた事で、嫉妬心に捕らわれ、邪心に落ちる。
その後、遥かなる太古に麒麟を抹殺し、四聖獣をも滅ぼそうとした。
表向きは丁寧で礼儀正しく親切そうな性格だが、その本質は悪である。

◆結城 凛（ゆうきりん）

裏の主人公？的存在。四聖獣を束ねる麒麟（中央の守護者）。
はるか太古に黄龍により滅ぼされたとされているが、かろうじて生きながらえている。
その反動か、本来の力を失っている。
普段は桜の担任として生活しているが正体は明かしていない（本人無自覚？）
性格的には飄々としており、一見生徒になめられている様な所があるが、単に優しいだけ。周囲から愛されるキャラ。

.....

次のページより、オーディション用の課題（台詞）です。

女性は女性役すべて、男性は男性役すべてを録音し、音声データで提出してください。

※配役については、適性を考慮し決定いたします。レッスン過程での配役変更もありませんのでご了承ください。

オーディション用課題<女性>

◆春木桜（はるきさくら）

「(息を切らしながら) すいません！ 春木桜、恥ずかしながら遅刻しました！」
「さあ、どこからでもかかってこい！ さあ！…さ、あ？あれ？さっきの人は？」

◆夏目向日葵（なつめひまわり）

「教室までつれてきちゃだめだろ、霊障で体調不良続出するぞ」
「あんたがどう考えようとあんたの価値観だからどうでもいいけど、アタシは、あたしの価値観であんたを死なせないって決めた！」

◆秋野楓（あきのかえで）

「やっぱり桜先輩！おはようございますです！」
「桜先輩、楓、痛い痛いのとんでけーしますです！」

◆冬月柚子(ふゆつきゆず)

「ごめんなさいね、出ていくタイミング失ってしまって。わたくしに御用がおありのようですね」
「そのように考えられるあなたは、とても立派で優しい方ですが、自分の事も考えなければいけません。今、ここにいるのはあなたの人生、誰の為でもありません」

◆青龍（せいりゅう）

「桜の木には、不思議な力がある…古から愛された花、その花の鮮やかさに人々は思いを強め、そして願いはその下に集う…。あなたにはまだ分らないかもしれないわね」
「あなたは、頭がいい。やるべきことはわかるわ」

◆朱雀/夏目百合/夏目蓮（すざく/なつめゆり/なつめれん）

「お姉ちゃんの価値観ってかっこいいなーって」

◆白虎（びゃっこ）

「案ずるな、少し気を失っているだけじゃ。人間の強い念が邪気に触れて増大し、念を物理的に飛ばすことができるようになってきているようじゃな」

◆玄武（げんぶ）

「もう、白虎は意地悪な言い方するなよ。楓、困ってるじゃん」

オーディション用課題<男性>

◆青龍（せいりゅう）

「桜の木には、不思議な力がある…古から愛された花、その花の鮮やかさに人々は思いを強め、そして願いはその下に集う…。君にはまだ分らないかもしれないな」

「君は、頭がいい。やるべきことはわかるさ」

◆朱雀/夏目百合/夏目蓮（すざく/なつめゆり/なつめれん）

「お姉ちゃんの価値観ってかっこいいなーって」

◆白虎（びゃっこ）

「案ずるな、少し気を失っているだけじゃ。人間の強い念が邪気に触れて増大し、念を物理的に飛ばすことができるようになってきているようじゃな」

◆玄武（げんぶ）

「もう、白虎は意地悪な言い方するなよ。楓、困ってるじゃん」

◆天宮慶太郎（あまみやけいたろう）

「(大きくため息) はあ、今も昔も学歴がそいつの人生を決める。あんな結果ではお前の人生もしれてるな」

「お言葉に説得力がありませんな。先代がいかに優れていたのかわかりませんが、この近代社会に時代錯誤としか思えません」

◆天宮慶介（あまみやけいすけ）

「僕だって…必死にやってるんだ…なぜ僕は父さんの息子なんだ…」

「ごまかしてもだめだ、あの人が教えてくれた。いいからだせ！」

◆黄龍（おうりゅう）

「禁忌を犯した罪は神とて償わなければならない。そして、この星を一刻も早く終焉に向かわせ、浄化することが今我々がやらねばならぬこと。それがどうだ？」

◆結城 凜（ゆうきりん）

「こういう時は、元気いっぱいに入ってくるより。申し訳なさそうに言う方が聞き手が受け止めやすいものです」